

令和 6 年産の水稲育苗における種子の取り扱いのポイント

1. 主食用品種について

令和 6 年産に用いられる水稲種子は、全品種共通で登熟期間が高温であったことから、例年より休眠がやや深い傾向にあり、出芽の遅れやばらつきが発生する可能性があります。

表 1 の目安のとおり浸種日数を通常より 1 日以上長くしましょう。なお、浸種の際は、こまめに種子の状態を確認し、水温は 10～15℃程度としてください。

高水温の浸種は出芽がばらつく原因となります。低水温で長期間浸種しても出芽は良くなりません。水温は必ず確認しましょう。

表 1 令和 6 年産の水稲育苗における浸種方法の目安

品種	通常の浸種方法		令和 6 年産育苗時の 浸種方法
	浸種積算温度	浸種日数 (水温 10℃の場合)	
コシヒカリ	120℃	12 日間以上	<u>左記日数より 1 日以上長く する。</u>
ふくまる SL			
一番星			
にじのきらめき	120～135℃	13 日間以上	
ゆめひたち	110℃	11 日間以上	
その他主食用品種 及び 月の光	100℃	10 日間以上	

2. 飼料用品種について

飼料用品種の中には、休眠が深いものがあります(オオナリ、北陸 193 号等)。休眠が深い品種を作付ける場合は、浸種の前に休眠打破の処理が必要です。休眠打破を行わないと発芽率がかなり低くなるため(図 1)、以下の方法を参考に、適切に休眠打破を行いましょう。



(乾熱処理は 50℃7 日間の通風乾燥)

図 1 休眠打破の違いが出芽率の違いに及ぼす影響

(1) 40～60℃の通風乾燥で 5～7 日間
 種子を入れるのは、網袋でも紙袋でも可。

(2) 育苗器(蒸気式加温出芽器)処理

- ① 種子を入れた網袋または紙袋をポリ袋に入れて、育苗箱の上のせる。ビニール袋の口は折り曲げるのみで密閉しない(図 2)。
- ② 40℃にセットした育苗器内で 6 日間程度静置する。
- ③ 途中で育苗器の水量を確認する(空だきしないように注意)



図 2 育苗器処理の状況

図 1 と図 2 は『インド型水稲品種「北陸 193 号」多収栽培の手引き(新潟以南版)』(農研機構 2019)より引用

(https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/hokuriku19320190719.pdf)